

新漁業管理制度推進情報提供事業 平成11年度浅海定線調査（陸奥湾） （要 約）

古川 章子・横山 勝幸・七尾久美子

調査船なつどまり（濱田 勝雄・長津 司・吹越 弘光・逢坂 健幸・本堂 洋一）

はじめに

この調査は、陸奥湾の海況の特徴や経年変動などを把握し、海況予報のための基礎資料を得ることを目的に昭和47年度から実施しているものであり、本報告書は、平成11年1月から12月までの調査結果をとりまとめたものである。

なお、詳細については、「平成11年度新漁業管理制度推進情報提供事業浅海定線調査結果報告書（陸奥湾）」（青森県水産増殖センター、平成12年3月）として報告済みである。

調査方法

（1）調査船

なつどまり（青森県水産増殖センター調査船、24.0トン、770ps、16.5ノット）

（2）調査点

図1に示したとおり、湾口部でSt.A、Bの2定点、湾内でSt.1～6の6定点の計8点。

（3）調査方法及び項目

調査方法は、平成11年度「我が国周辺漁業資源調査」沖合海域海洋観測及び新漁業管理制度推進情報提供事業に関わる海洋観測調査指針（東北ブロック関係）（平成11年4月、水産庁東北区水産研究所）に準拠した。調査項目は以下のとおり。

① 気 象

天気、雲量、気温、気圧、風、波浪

② 水色、透明度

③ 水温、塩分

0m、5m、10m、10m以深から底層（海底上1～2m）までの間は概ね10m毎

④ 溶 存 酸 素

St.2と4の5m、20m、底層及びSt.1、3、5、6の20m、底層

（4）調査回数

毎月1回、計12回実施。

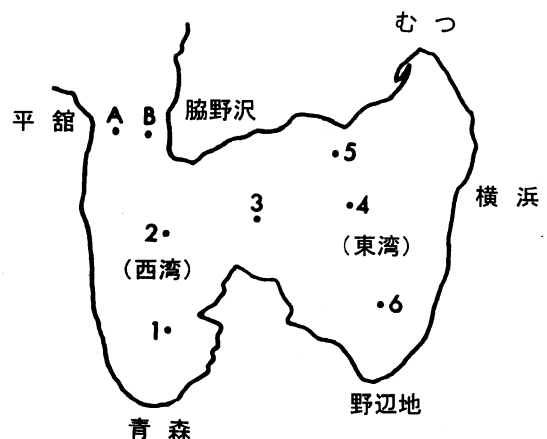


図1 調査点

調査結果

平成11年における陸奥湾海況の年間の特徴は以下のとおりであった。

（1）水色は4～5の範囲であった。

（2）透明度の年変化範囲は、調査点全体でみて、7m（1月）～18m（6、8月）であった。各海域とも概ね8月と6月ないしは7月に高く、1月に低めであった。

（3）水温の年変化範囲は、調査点全体でみて、最低が表面（0m）で2.5℃（2、3月）、中層（20m）

で2.2℃（3月）、底層で2.3℃（3月）で、最高が表面（0m）で29.0℃（8月）、中層（20m）で24.4℃（9月）、底層で23.4℃（9月）であった。

平年に比べると（平年値は昭和47年～平成10年の過去観測平均）、1～3月は中層以浅でかなり低め、底層では一部海域で高めながらその他の海域では平年並みないしは平年より低め、4月は底層で高めながら中層以浅では低め、5～8月は概ね平年並みで推移、ただし、8月は表層でかなり高め、9～11月は湾全体に高めの傾向が続き、12月はほぼ平年並みとなった。

- (4) 塩分の年変化範囲は、調査点全体でみて、表層で31.79（6月）～33.92（12月）、中層で31.91（5月）～33.91（12月）、底層で32.49（3月）～34.24（9月）であった。

平年に比べると（平年値は昭和47年～平成10年の過去観測平均）、1～3月は湾全体にかなり低め、4月以降も中層以浅ではかなり低めで推移したが、前年の秋から続いたこの低塩分の傾向も徐々に弱まり、表層では9月、中層では7月以降平年並みとなっている。底層では4～12月まで平年並みに推移した。

なお、4月には各海域とも深部ほど高温、高塩となり、顕著な水温逆転がみられた。

- (5) 溶存酸素の底層の年変化範囲は、調査点全体でみて4.8mg/L（飽和度62.6%、9月）～10.7mg/L（飽和度100.0%、4月）であった。

溶存酸素は1月から3月ないしは4月まで上昇、4月ないしは5月以降8～10月まで低下傾向を示し、その後は上昇した。年間最低値はほぼ平年同様の水準にとどまり、最低期の期間も比較的短く、概ね平年と大差なく推移した。